



私は8月に行われた東京大学・企業・大学訪問に参加しました。ニュースを見て台風が突撃するのではないかと不安になりましたが、運良く訪問中は晴れていました。特に印象に残った OBOG 座談会とグループセッションについて感想を書こうと思います。

OBOG 座談会は夕食後に行われました。テーブルに OBOG の先輩が一人ずつつき、私達が質問をするといったもので、私は4人の先輩の話を聞くことができました。勉強についての話はとても興味深かったです。

まず、私は東京大学の合格者(理系)は皆同じことを言っていることに気づきました。一つ目は、物理や化学といった教科は早めに終わらせておいた方が良いということです。理由はシンプルで演習に多くの時間が必要となるためです。数学や英語は早めに終わらせた方が良いというのは周知の事ですが、高二から本格的に学ぶ化学や物理といった教科を進めた方が良いという話を知っている人は少数派なのではないかと思います。二つ目は逆に国語(現代文)や英語のリスニング、古典の文法にはあまり時間をかけない方が良いということです。理由は現代文やリスニングはあまり差がつかない分野であり、古典の文法に時間を割いても結局きかれることは読解力であるため、読むことを重視すべきだからです。いつ何を学び、何に時間をかけるかを知ることができ、大学受験に向けてどう勉強していくかの見通しを持つことができました。

次に今頑張っている人は後に苦勞するという話に驚きを覚えました。いやさつき早めに化学や物理を終わらせた方が良いついていったじゃん、と思うかもしれませんが、ここでの「頑張っている」は心理面の意味合いがあります。勉強を頑張っていると思っている人は大学に入った後の勉強続きの生活に耐えられなくなるそうです。勉強を頑張るのではなく、好きになること。そして楽しむことが大切なのです。孔子が残した言葉に次のようなものがあります。

これを知るはこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。

「よく知る人もそれを好む人には勝てない、好む人もそれを楽しむ人には勝てない。」という意味です。確かに私が中学生の時、模試の上位には勉強を楽しんでいる人が多く、楽しまない人が上位にいるのはあまりありませんでした。楽しむことが強いこと、これは昔も今も変わらず言えることであり、きっと勉強以外にも言える鉄則のようなものなのかもしれません。

最後に勉強の話ではありませんが、興味深い話がありました。それは今のうちに自分と向き合い、自分の魅力を知り、将来自分は何をしたいのか、ということをしっかり考えておくべきだということです。

東大に受かることだけが目的で入る人は少なくありません。そのような人は東大に入ってから何をすべきなのか分からなくなり、自分を見失い、結局授業にほとんど出席しなくなると言われています。きっと自分が何をしたいのか、将来についての考えがしっかりしていないからそうなるのでしょう。確かに東大に受かることは世間一般にすごいと言われることであり、最近では東大についてのテレビ番組が増えています。本屋では東大生の勉強法といった本などがよく並んでいます。メディアを通して私は東大に合格することが人生の勝ち組になるという錯覚が起こることがよくありました。しかし、忘れてはならないのは東大はあくまで大学であり、将来の夢を叶えるための通過点にしか過ぎないということです。大学を偏差値だけで比べ、ブランド名として捉え、選ぶのは自分の将来が見えていない証拠なのかもしれません。自分は何をしたいのか、そのために何が必要なのか、それをどこで学ぶのか。自分の軸をしっかりする必要があります。そのためには、自分の事について知らなければなりません。

しかし、自己紹介ができる人は多くありません。自己紹介で抑えるべきポイントは **N2SF** だといわれています。**N** は **now** で今の自分。学校はどこに通っていて何が好きなのか。ここは誰でもできると思いますが、大切なのは次なのです。それは **2S**、**2** つ以上の自分の **strong points** つまり、魅力、長所です。**OB** の先輩は高校でギター部に入っていました。世界一のギターリストになった訳ではありませんが、ギター部に入っていたことは自分の **strong points** とだとおっしゃっています。それは誇りを持っているからなのです。**strong points** は他人と比較して優れている点はなく、自分の中で誇りとして持っているものだからです。これが話すことができる人は強い。自分の強みを知っているからです。そして **F** は **future**、自分の将来の夢です。この **N2SF** を抑えることが大切です。すると自分の中に軸ができます。憧れを持たれる人というのは自分の軸をしっかり持っている人です。**OB** の先輩の話によって自分と向き合う大切さに気づきました。

グループセッションにいらっしゃっていた講師はやはり軸を持っていました。自分のしたいこと、また世界の現状から自分がしなければならないことなどに気づき、考え、行動に変えていました。例えば、難民問題は日本はあまり気にしていませんが、現状はどうな

のか現地に足を踏み入れ、支援活動を行っていました。きっと自分の軸をしっかりしているような人は憧れるだけでなく、世界にも貢献でき、人を救うことができるのだと思います。自分より様々な経験をしてきた軸のある講師の方々とお話ししていると気づいたことがあります。孔子の格言に次のようなものがあります。

成功者は必ず、
その人なりの哲学をもっているものだ。
その哲学がしっかりしているからこそ、
成功者の人生は揺るがないのだ。

質疑応答の中で「困難は立ち向かうためにある。」この言葉をポロっと聞いた時、孔子の格言を思い出しました。笹川平和財団の講師の方々にはきっと軸があるだけでなく、自分なりの哲学を持っていらっしゃるに違いありません。私はまだこの世界に来てまだ16年しか経っていないので自分なりの哲学というものを持っていない上考えたこともありませんでした。

Fとして私は難病で苦しんでいる患者を救いたいという思いから、医師を目指しています。医師の働いている姿や現場を見て、医師はどのように働いているのか、求められるものはどのようなものかなどを学び、将来像を明白にし、日々の学習意欲につなげるために私は慶應義塾大学附属病院に訪問しました。実験用ラットを見たり、実際の脳手術の映像を見たりしました。自分の将来の夢の医師の将来像がはっきりした気がします。医師に求められるものとして知識、技術、コミュニケーション力が挙げられます。確かにどれも必要です。しかし、私はこの企業訪問を通してやはり信頼されることも必要なことに気がつきました。訪問に協力していただいた脳外科の先生はとても優しく、きっとプロは何か信頼されるような能力があるのだなと思いました。人に信頼されるためには何が必要か。実はこのことはOBOGの座談会で学んだことでした。信頼されるにはまず自分をしり、軸を持つこと。結局はここに集約されるのですね。

東京大学・企業・大学訪問ではただ東京大学や企業を訪問するだけでなく、自分のこれからの人生を考えるきっかけとなりました。自分と向き合い、軸を持ち、そして自分なりの哲学を掴んで揺るぎない人生を歩むこと。このような大切なことを学べられる機会を与えてくれた先生や様々な講師に感謝の気持ちでいっぱいです。この訪問で学んだことを知識として留めず、実行に移していきたいと思います。